

令和7年度第3回学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 各務原高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和8年1月27日(火) 13:30~15:30
- 3 開催場所 各務原高等学校 会議室
- 4 参加者

会長	長倉 守	岐阜大学大学院教育学研究科准教授
副会長	丹羽 文雄	各務原市立中央中学校長
委員	小川 陽子	新生こどもえん園長
	古田 希雄	各務原市 市長公室 まちづくり推進課長
	堀 善子	各務原市 市民生活部 税務課長
	上杉 秀佳	本校PTA会計
学校側	野々山伸一	校長
	杉山 秀謙	教頭
	高橋 美穂子	教頭
	高木 美希	事務長
	美濃輪智彦	教務主任
	橋本 純	生徒指導主事(書面議決)
	水野 里美	進路指導主事
	武藤 俊平	研修主事

5 会議の概要(協議事項)

**議題** 令和7年度「教育指導の重点及び学校経営計画」の自己評価について  
今年度の取組の成果と課題について(各分掌より)

**主な意見**

- ・スクール・ポリシーに基づいて、学校として確実に取組がなされ、生徒の成長につながっている。職員がスクール・ポリシーを意識し、共通認識をもった上で自分なりの願いをもって実践しているのがよい。
- ・職員のストレスチェックの結果、多くの職員が低ストレスと感じているのは、働き方改革に努めつつ、各種取組に丁寧に取り組んでいる成果である。職員全員が心身共に健康な状態で、生徒に向き合っていることは素晴らしいことである。
- ・子どもの学びと教師の学びは相似形であると言われる。校訓である「創造・挑戦・協同」の精神が職員にも浸透しており、それが生徒に作用し、いろいろな挑戦や協働が生まれていると感じる。ぜひ、今後も校訓を大切にされた学校運営をしてほしい。

- ・常にスクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づき、PDCA サイクルを繰り返しながらよりよい学校運営を目指したい。実践内容についてはカリキュラム・ポリシー、成果についてはグラデュエーション・ポリシーに立ち返り、到達度を整理するとよい。
- ・スクール・ポリシーを職員・生徒と共に共有し、年度の目標を生徒に明確にもたせたい。全体及び個人の目標が個々の生活に組み込まれることで、家庭学習の充実等、家庭生活の充実にもつながっていくはずである。
- ・各分掌において、年度当初の計画に基づき、着実に取組が行われている。今後はさらに、認知型の分掌（教務部や進路指導部、図書・情報部）と非認知型の分掌（生徒指導部、特別活動部、教育相談部、保健厚生部）の連携や、各型内の連携を図る等、横断的な視点で組織的に取組をすることで、教育的効果を相乗的に高めたい。
- ・同窓会の存在を有効に活用したい。生徒の様子や学校の取組を積極的に広報することで、人的・物的支援が得られるようにするとよい。学校運営協議会にも、ぜひ参画していただけるとよい。
- ・学校の魅力を発信する手段として、学校ホームページの活用は勿論のこと、「地域と共にある学校」として地域性を打ち出すことで、新聞記事に学校の取組が掲載されるよう積極的に働きかけを行っていくとよい。
- ・特別活動やふるさと教育において、感性に基づいた創造的な活動を位置付け、自ら課題を見つけ、答えを見つけていく主体的な学びを大切にし、生徒を育てている。ぜひこうした活動においては、生徒に必然や願いをもたせ、生徒自身に委ね、自己決定させる営みを大切にしたい。
- ・学校評価アンケートの結果を受け、「自転車ルールブック」を生徒に分かりやすく作成して配付したり、保護者の方々にいじめに関する取組を理解していただけるよう「人権通信」を発行したりと、よりよい学校運営を目指し、速やかに改善に取り組みもうとする姿勢が素晴らしい。
- ・生徒の安全な登下校に関わり、警察と連携を図りながら、「自転車ルールブック」を活用し、道路交通法の改正に関わる情報やヘルメットの着用等について繰り返し指導をされたい。
- ・特別活動部では、行事において新しい取組を実施されたと報告があったが、例年踏襲ではなく、常に工夫・改善を加えながら新しいことにチャレンジしていくことが、生徒の期待感を高め、満足感につながる。今年度のような取組は、生徒の生きる力や人間力を確かに高めることにつながったと考える。職員にとっても、生徒にとっても、小さな成功体験が人を育てるので、成果を褒めて自信をもたせ、次年度の取組につなげてほしい。
- ・読書は視野や思考を広げ、ひいては人間関係の広がりにもつながる大切なものである。また、言語を学べる機会でもある。素晴らしい図書館を保有する学校であるので、ぜひ人が集う魅力的な図書館づくりを目指し、より多くの生徒が読書に親しむことができるよう取組を充実させたい。

- ・「言語活動の充実」は、非常に重要であると考えます。幼児教育においても、幼児期から言葉で話す機会を積極的に取り入れている。高校教育においても、「読む」「書く」「話す」活動の中で、日本語を丁寧に扱い、言語で思考を深める過程を大切にしてほしい。
- ・これからの時代を生きる生徒には、よりよい社会の創り手として、与えられた仕事をこなす人材ではなく、よりよくするためにはどうしたらよいかと自ら考え行動する人材が求められる。ぜひ、学校外での学びを積極的に取り入れながら、社会におけるマナーや確かな行動力を身に付けてほしい。

#### 「ふるさと教育」

- ・本校では、カリキュラム・コーディネーターの役割を担う教員が中核となり、市や外部機関と密に連携を図り、充実した探究的な活動が実施されている。リアルな学びに触れることで、人間性を豊かにし、それが必ず進路につながる。ぜひ今後も、生徒の願いやニーズを大切にし、探究的な学びを大切にさせてほしい。
- ・活動を充足させるためには、探究・地域連携を支える人的資源の確保が課題となる。一案として、同窓会ネットワークを活用することも考えられる。まずは、モデル事業として企画を立ち上げ、成果と課題を明らかにした上で、軌道に乗せていくとよい。
- ・市の取組への高校生の参画は、地域活性化の一躍を担っている。今後、3市連携による発表会もあるので、他市の実践を聞き、交流を深めることでさらに視野を広げ、まちづくりの一躍を担ってもらいたい。

#### 6 まとめ

- ・第3回学校運営協議会では、令和7年度「教育指導の重点及び学校経営計画」の自己評価について、成果と課題、次年度の対応案を提示し、多方面より貴重なご意見をいただいた。
- ・委員の皆様から得た意見を全職員で共有し、職員一丸となって改善を図り、教育活動を展開すると共に、令和8年度の方角性を明らかにする予定である。